東邦大学医療センター佐倉病院
医療連携だより

『入・退院支援の開始について』
“入院前面談により、早期から退院後を見据えた切れ目のない支援を行います”

医療連携・
患者支援センター長
吉田友英

入院支援面談室

佐倉病院では今回の診療報酬改定で新たに加算が認められました入退院支援業務を開始しました。

入院支援では、患者さんが入院予約をされた時点で、入院支援看護師が面談を行い、そこで、身体的・精神的・社会的な問題の解決について早期に着手し、その問題解決のため、社会福祉士、薬剤師、栄養士、理学療法士などと協働して患者さんを最善の状態で入院・治療に繋げるようサポートを開始します。入院前患者支援を行うことで、入院期間が短縮し、退院後在宅早期復帰だけでなく、院内感染やADL低下のリスク軽減、早期の日常生活（職場）復帰による患者 QOL の向上などにより患者満足度の向上につながると考えています。

入退院支援部門は、看護師14 名・ソーシャルワーカー４名、ベッドコントロール事務員４名の構成となっております。入院前の面談を行うにあたり面談室を整えました。4月 17 日にスタートし、当初はがんの患者さん、介護保険をお持ちの患者さん、75 歳以上の患者さんを対象として入院前の面談を行っていますが、いずれは全患者さんに面談を行う予定です。開始からまだ１ヶ月（5/16 現在）ですが、253 名の患者さんの面談を行い、1人あたりの所要時間は 1 時間程度でした。入院後は、退院支援看護師・ソーシャルワーカーがバトンを受け取り、入院後1週間以内に医師・病棟看護師・リハビリスタッフなどとともに、退院支援多職種カンファレンスを行い、退院までの課題を整理したのち退院支援計画を立案し、個々にあった調整を開始します。自宅退院を目指し、自宅で医療処置を継続する、介護体制を整えたい、あるいは退院後は転院、施設入所を希望するなど、患者さん・ご家族など、個々のニーズをしっかり確認し、院内はもとより、院外の訪問診療・訪問看護・担当ケアマネジャー・施設職員・行政関係者などと必要に応じた連携を行ってまいります。今後とも関係各位皆さまのご協力をお願いいたします。

公開講座スケジュール

2018.6.19 現在　教育支援室

2018 年　佐倉病院公開講座のお知らせ

入場無料・申込不要・200 席

ご参加お待ち致しております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。
講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、総務課にご連絡下さい。

	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November
開催予定日	28 日 土曜日 13:00～15:00	休講	22 日 土曜日 13:00～15:00	13 日 土曜日 13:00～15:30	24 日 土曜日 13:00～15:00
講演予定テーマ	夏に気になる皮膚疾患		通院で出来る、がん治療の進歩 <がん撲滅月間>	<地域で考えるケアと治療> 認知症とともに歩む“診断と治療”	ここまで進んだ！ 消化器疾患の最新治療
担　当	皮膚科 樋口 哲也 他		化学療法室 岡住 慎一 他	<神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他>	消化器内科 松岡 克善 他

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
（場所：東棟７階・講堂）

第 191 回：　7 月 23 日（月）18 時 00 分～
第 192 回：　9 月 27 日（木）18 時 00 分～
第 193 回：10 月 15 日（月）18 時 00 分～

地域の医療機関の皆様もご参加いただけます。
詳細は病院ホームページでご確認ください。
（問い合わせ先：教育支援室）

東邦大学
佐倉だより

Vol. 41　2018,7,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL　043-462-8811(代)
FAX　043-462-8820(代)
URL　http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診(病)連携
地域に貢献する病院

教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

Topics News

1 Executive Message
本年の「災害拠点病院活動」について
副院長／管理・診療担当　岡住 慎一
2 アピールしたい診療と研究　#16
消化器内科　教授　松岡 克善
3 昇任のごあいさつ
医学部　臨床支援室　教授／医療連携・患者支援センター長　吉田 友英
消化器外科　准教授　大城 崇司
4 医療連携だより　医療連携・患者支援センター長　吉田 友英
4 公開講座スケジュール　／　臨床病理症例検討会のご案内

Executive Message

Toho University
Sakura Medical Center
副院長／管理・診療担当
岡住慎一
Shinichi Okazumi

本年の「災害拠点病院活動」について

当院は2016年3月災害拠点病院の指定を受けました。千葉県佐倉市の災害時の行政体制は、県災害対策本部、災害医療本部（健康福祉部）、千葉県2次医療圏印旛地域合同救護本部（印旛保健所）、市町救護本部の連携で構築され、合同救護本部において、日本医科大学千葉北総病院、成田赤十字病院の各災害拠点病院との連携で有事に対応します。平時の当院には、行政との連絡体制の整備、地域医療機関・消防との災害時シミュレーション・訓練を進めることが求められています。

当院では、2008年から地域消防と共催で「救命と安全の連鎖研究会」を開始し、行政（市役所、保健所、消防、警察）と市内中核病院（聖隷佐倉市民病院・佐倉中央病院）、医師会代表の出席を得て、佐倉市の災害時医療に携わる当時者が一堂に会し、顔の見える連携を目的として、演題発表・討議を継続しています。本年は3月10日に第10回研究会を施行し、現状の課題認識の共有を図りました。行政からは、消防：「特殊災害対応 ～ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」、佐倉市役所：「少子化対策と地域の救命・安全体制」、佐倉警察署：「認知症関連問題」、印旛健康福祉センター：「印旛医療圏救急・防災の現状」の演題発表を、地域医療機関からは、聖隷佐倉市民病院：「当院における救急と防災への取り組みと現状」、佐倉中央病院：「地域の小病院における救急の現状と防災への取り組み・佐倉市外への救急搬送の現状分析の試み」の発表をいただきました。当院からは、「救急外来の現状」、「DMAT活動」について報告しました。

さらに本年は、消防および地域医療機関と合同で段階的に訓練活動を行っていく予定であり、災害時トリアージ体制訓練から開始し、発災時搬送シミュレーションに進んで、地域防災連携体制の構築・維持を図って参ります。

アピールしたい 診療と研究

消化器内科 炎症性腸疾患センター（IBDセンター）にズームアップ！

16

消化器内科／IBD センター　スタッフ

消化器内科
教授
松岡克善
Katsuyoshi Matsuoka

自己紹介

この度、2018 年 4 月 1 日付で内科学講座消化器内科学分野（佐倉）教授を拝命いたしました。私は高知県の出身で、1996 年に慶應義塾大学医学部を卒業し、同大学の内科学教室に入局しました。4 年間の内科研修を経て、2000 年に同大学大学院に入学しました。大学院では炎症性腸疾患の診療に従事しながら、炎症性腸疾患の病態解明のための基礎研究を行いました。恩師である日比紀文先生（前慶應義塾大学医学部消化器内科教授）からは、一人ひとりの患者さんの病態を考えて治療すること、臨床医にしかできない研究をすること、世界と勝負することを常に指導されました。2005 年から 2009 年まで米国に留学し、炎症性腸疾患の基礎研究を続けました。帰国後は、慶應義塾大学および東京医科歯科大学で、炎症性腸疾患の診療と研究に従事してきました。

診療

当院は、前任の鈴木康夫教授（現：特任教授、IBD センター長）のご尽力により、全国でも有数の炎症性腸疾患患者数を誇っています。近年、炎症性腸疾患の分野では新薬が次々と登場してきていますが、その治療実績は全国でもトップクラスです。また、診断においては小腸バルーン内視鏡、MRI/CT エンテログラフィー、カプセル内視鏡といった先進的な検査法を実施しており、患者さんにとって苦痛のない検査を目指しています。さらにアカデミック・センターとしては、国際共同治験への参加、論文発表、学会発表などを通して、国内のみならず国際的にもオピニオン・センターとして認知されています。一方で、炎症性腸疾患は、国内患者数が潰瘍性大腸炎 22 万人、クローン病 7 万人と推定されており、もはや稀少疾患ではなく、common disease になってきています。そのため、病診連携が今後ますます重要になってくると考えており、印旛市郡をはじめとする先生方との連携体制を一層強化していきたいと考えております。

さらに当院は大学病院であるとともに地域の中核病院でもあります。そのため、ありとあらゆる消化器疾患に対応できる総合消化器内科を目指していきます。内視鏡治療、肝胆膵疾患、消化器がんなど全ての消化器疾患において、質の高い安全な医療を提供することができる体制を整えていきます。また、当院の消化器病センターの大きな特徴は、内科と外科の連携にあります。病棟は内科・外科で一緒に運用されており、内科的治療と手術がシームレスで行える体制になっております。これからも常に患者さんの視点に立ち、各々の患者さんにとって最善の医療を提供していきます。

研究

医学研究を行い、その成果を世の中に還元していくことは大学病院としての責務です。当院消化器内科では、その強みである炎症性腸疾患を活かして、臨床の現場で患者さんが本当に困っていることや、医師が悩んでいる診療上の疑問に対して答えを出していく臨床研究を行なっていきます。そして、その成果を患者さんや炎症性腸疾患の診療にあたる医師に還元することで、診療の質を高めていきたいと考えています。

さいごに

当院の消化器内科は若手医師が多く、やる気と活気に溢れています。若い医師が自由に自分のやりたいことにチャレンジできる環境を提供していきたいと考えています。そして、印旛市郡をはじめとする診療圏内の患者さんが、安心して最善の消化器診療を受けていただけますよう、消化器センター・IBD センター医師全員が全力で診療にあたっていきたいと考えています。今後とも、皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

昇任のごあいさつ

医学部　臨床支援室
教授
東邦大学医療センター佐倉病院
医療連携・患者支援センター長
吉田友英
Tomoe Yoshida

医学部臨床支援室に新設されました地域医療教育部門の教授を拝命しました吉田友英と申します。私は、東邦大学卒業以来耳鼻咽喉科医師として主に東邦大学大森病院と佐倉病院で働いて参りました。3 年前に佐倉病院院長補佐、医療連携・患者支援センター長となり、第一線で携わってきた臨床医としての経験をもとに築いてきた地域医療連携を基に教育を含めた今後の活動に携わっていきたいと考えています。

近年厚生労働省が地域包括ケアを中心として推進している IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）の理解、普及が地域医療に求められております。健康、医療、福祉に関係する仕事に就く人たちが、そのサービスを利用する人のために、専門的な役割を担いながらも、共通の目標をもって協働することが重要であり、当院でも新たに導入した入退院支援業務がその一つであります。この IPW についてしっかり学ぶこと、また「協働」ができるようになるための教育が「Interprofessional Education：専門職連携教育」で IPE と略されます。2016 年に大きく改定された医学および薬学教育のモデルコアカリキュラムでは卒前教育にも、多職種連携・多職種協働やチーム医療を具体的にイメージできる実践的教育が求められています。臨床実習は今後、今まで以上に地域医療（地域完結・循環型医療）や地域包括ケアシステムを意識した内容になるため、地域医療機関等に実習の場としてご協力を御願いしなくてはなりません。このような新たな医療制度ならびに医療教育を実りあるものにするためにも、関係各位との交流を含めて今後のご協力を何卒、よろしくお願いいたします。

消化器外科
准教授
大城崇司
Takashi Oshiro

この度、東邦大学医学部外科学講座一般・消化器外科学分野の准教授を拝命致しました大城崇司です。2009 年に当院に籍を移して以降、加藤良二前教授、岡住慎一教授の御指導の下、約 2,000 例の消化器外科手術を経験して参りました。また、心温かく、思慮深い同僚に恵まれた環境で多くの手術に携わってこられたことを幸せに思っています。胃癌、大腸癌、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、肥満症に対する腹腔鏡手術が私の主な手術となりますが、安全性を担保しながら、より低侵襲な手術となるようスタッフと共に、日々取り組んできました。「患者さんが、できるだけ早く、日常生活に復帰すること」が、我々の一貫とした願いです。今後も地域の先生方の協力を得ながら、理想に近づけるように誠心誠意尽力して参りたいと思います。私のライフワークとなっている肥満・糖尿病外科手術については、内科を中心とした多職種のチームで取り組んでおります（全国でも有数の肥満外科手術認定施設です）。手術室で治せる肥満症、糖尿病もありますので、お困りの症例がございましたらいつでもご相談ください。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。